

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2092100011		
法人名	社会福祉法人 軽井沢町社会福祉協議会		
事業所名	社会福祉法人 軽井沢町社会福祉協議会 くにちゃん家		
所在地	長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉 2371-2		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	平成23年4月6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2092100011&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A
訪問調査日	平成23年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉協議会が運営している事業所として、利用者一人ひとりにあった支援を進めるためには、利用者の本当の思いや望みを汲み取ることが大切なことだと考えています。利用者個人個人の思いに合わせ、支援が必要になっても、住みなれた地での生活継続に向け、これまで築きあげてきた家族や地域社会との関係性を保ちながら、利用者本人の「生活の視点」に着目し本人、家族の笑顔を大切にすることはもとより、利用者を取り巻く全ての関係機関(医療・保健・福祉・地域)との連携を大切に、住みなれた地域での生活を可能な限り継続できるような支援体制の構築を基本に、利用者・家族の思いを尊重したケアを進めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定員6名という小規模の事業所であり、ご家族の協力・支援を得ながら、利用者に寄り添った介護を大切に、「安らぎのある生活」を目指して、「多彩で柔軟な」介護を実践している。居室を一望できる事務室、広い廊下、解放感のある高い天井などの良さを活かしながら、既存事業所を改良しての事業運営であり、不都合な所もあるが利用者職員で工夫しながら(知的好奇心をそそる書物・懐かしいレコードによるBGM・テラスの活用など)快適空間となるような事業所作りをしている。重度化の傾向があるので、重度化や終末期対応も視野に入れての介護となっている。時の経過の中で、重度化と軽度化の時期があるので、いずれの時でもゆったりと安心して暮らせる空間作りのため、ご家族との連携を重視・利用者の声を受容・職員同士や管理者との良好なコミュニケーション・食事、排泄、入浴の基本介護へのぶれない支援が行われ、「笑顔」のある暮らし作りに取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考案した理念を見える場所にかかげケアの見直し理念の見直しを行い具体的なケアに結びついている。	全職員で従来の理念を見直し、地域との関係性や事業所の目指すサービスの在り方を示した事業所独自の理念を作り上げている。玄関の壁に誰にでもわかるように理念が掲示されている。日々のサービス提供場面で理念が反映されるよう介護の見直しを行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事計画のもと小規模多機能の事業所の利用者との交流や、公民館、デイサービス、地域活動支援センターへの行事参加、毎月行う地区サロンに参加している。また回覧板での情報収集や地域での活動へ参加している。	地域のゴミゼロ活動に参加したり、隣接する事業所で月1回行われる地区社協主催のサロンに参加するなど地域との繋がりを大切にしている。公民館や地域活動支援センターなどの行事に参加したり、地域のボランティアや中学生の体験学習を受け入れるなど双方向的な付き合いをしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区サロンや行事、ボランティアの訪問、町の催しなどを通して認知症の方との関わり方を伝えている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を年4回開催し利用状況、運営方針、事業計画等の説明や報告を行い話し合いの結果を職員に伝え今後活かしている。	地域・行政・ご家族などの参加の下、年4回小規模多機能型事業所と合同で会議を開催している。利用状況・評価や事故の状況等も透明性を持って報告し、委員からも多くの意見等を得ている。会議内容は職員への共有化を図り、今後の運営に活かすよう努めている。	運営推進会議のさらなる充実のために年6回の開催と利用者のご家族の全員を委員に加えて都合に応じて参加できる体制にすることを期待したい。特に利用者には心身の状態に応じて参加する配慮を望むと共に欠席したご家族には会議内容を報告し、さらに面会者等に向けて公開することを望みます。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の高齢者サービス担当者連絡会、ケア連絡会に出席し現状報告、情報交換を行っている。担当者には行事の際参加をいただいている。	「町」と「社協」という関係のため連携は密であり、月1回行われる町主催のサービス担当者会議にも参加し、情報交換が行われている。町の担当者の運営推進会議への出席もあり事業所の現状についての理解も得ている。	

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限しないよう、自在に過ごしていただいているが、安全に生活できるよう各利用者に合わせて見守りや側方介助を行っている。	玄関や居室の施錠はなく、抑圧感のない暮らしの支援は出来ている。見守りや連携プレーを大切にしている。身体拘束しないケアについての職員の共有認識も研修等を通じて出来ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法の研修等に参加し、さらに復命をし他職員にも情報共有し理解を深めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、常に制度の理解を深めると共に職員並びに他セクションとの連携を持ち情報共有している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者家族に気軽に相談していただけるよう傾聴の姿勢を持ち、家族の協力が重要であり、一緒にケアを進める等の体制作りをしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いを傾聴しながらケアに結びつけ家族からは面会や行事に参加された時に意見・要望を伺い運営に反映している。	利用者には寄り添う介護の中で傾聴の姿勢を大切に意見や思いを聞いて、ご家族には面会時や行事参加の折に思いを聞いている。ご家族を、利用者を支える協力者として位置づけて、事業所から各種の情報を提供し、現状の理解を頂くと共に率直な思いを聞いて事業運営に反映するよう努めている。「悠々だより」を年6回発行し、利用者の行事等での様子を伝えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との個人面談に於いて意見・提案を言える場を設けている。定例ミーティングに於いても運営に関する意見・提案を出し合い運営に反映させている。	月1回行う定例ミーティングや年1回行う個別面談会において職員の意見や思いを聞く機会を設けている。管理者、職員間、共に良好なコミュニケーションをとっており、「話せる」「話し易い」という思いで接している。	

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は評価基準に基づき、職員を評価し、個人面談により各自の思いを聞き、働きやすい職場作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協全体の勉強会への参加、県、及び団体からのセミナーへの参加等研修に行く機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐久圏域グループホーム連絡会などを通じ、相互訪問や勉強会、管理者会議を行い質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも心が開かれるよう寄り添い傾聴に努め、気持ちを引き出し、受け入れながら関係づくりをしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族が利用を希望するに至ったいきさつや、事情をうかがっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネを含め本人、家族の生活への思い、関わり方等相談を繰り返す中でより必要なサービス利用が出来るよう、共に考えている。		

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の今まで培ってきた生活歴を考えながら、食事の下ごしらえや、洗濯物を干したり、たたんだり、一緒に行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を伝えながら行事への参加等を集い情報共有する中でより良いケアに向け家族の協力もいただいている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の面会を大切にし、隣接する老人福祉センターに通って来る仲間との交流、馴染みの地域への行事参加など心がけている。	利用者がこれまで地域の中で培ってきた関係を大切にし、行事などに参加して馴染みの方との交流を支援している。ご家族が中心となるが、絵手紙・暑中見舞い・年賀状などの交換も大切にしている。時間の経過の中で、知人等の足も遠退くので行事への招待などの働きかけも今後求められる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を観察しながら、職員が良好な関係が築けるよう関わっている。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係性の継続に向けグループホームの行事などに誘いの通知等をし、気軽に立ち寄っていただける関係作りをしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人の本音や思いが伺えるよう、「つぶやきノート」を作り職員間での共有を図り、思いを聞きとるのが困難な場合は家族から、情報を得て実現に向けて話し合っている。	センター方式を活用した基本情報を土台に、利用者の思いや意向を把握して、寄り添うこと、又、表情や全身の反応で利用者の思いを受け止めるよう取り組んでいる。フト漏らす利用者の声を書き留める「つぶやきノート」を作り、介護や介護計画作成に繋げている。利用者は主に、風呂の時や一人での時の心身共に寛いだ時間に本音の思いを話すことを伺った。	

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりの中から暮らしぶりを把握し、又家族より今までの生活歴等を伺っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い、顔色、表情等に留意し今までと違った動作、言動等の変化に迅速に対応できるよう観察を欠かさない。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の意見を聴き逃さず毎日の申し送りや、ミーティングにて意見を出し合い介護計画を作成し、計画期間にこだわらず現状に即した対応をし家族への説明を怠らない。	利用者やご家族の思いを聞いて、計画作成担当者が中心となり課題分析から評価まで行っている。生活一覧表などの記録を基に、月1回暮らしや心身の状況をまとめてモニタリング・評価に繋げている。日々のミーティングを通じて心身の変化を把握し、現状に即した介護計画になるよう対応している。	計画立案から実施状況の把握・評価までの流れを検討して、モニタリング・評価を中心に見易く、書き易い様子を構築することを期待したい。さらに、介護職員の介護計画への関わりを多くして、介護職員の観察力や介護力を養う一助となるよう体制作りをすることを望みます。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活一覧表・個別記録・入浴実績・細やかに日々の様子や気づきを記録している。又センター方式を活用し本人の姿を共有できるように取り組んでいる。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族・事業所で、できる事を見極めながら病院受診や、冠婚葬祭等への参加を支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加、近隣する中央公民館や老人福祉センターでの催しに参加、小規模多機能との合同行事を企画、その中で地区サロンの催しを楽しんでいただいている。		

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には家族同行の受診となっているが、家族の状態に応じ職員が代行する時もある。治療を必要とする病気を持っていない利用者もかかりつけ医による往診を受けている。</p>	<p>利用者やご家族の希望するかかりつけ医になっているが、全員が事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。事業所に隣接する位置に医療機関があるので、月1回の往診があり、訪問看護の受け入れも出来ている。週3回、理学療法士が来て、リハビリテーションの対応をし、利用者の心身の支えになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>普段と違った様子を併設している小規模多機能の看護師へ相談しアドバイスを受けている。又定期的な往診の中で訪問看護師へと繋ぐこともある。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>普段とは違う環境での入院生活のため、日頃の本人の様子を医療機関へ伝えていく。また不安軽減が図れるよう、顔馴染みの職員が面会に行っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合は家族・かかりつけ医に連絡し家族の意向や方針を聞きながら支援している。又ターミナルケアに備え研修会を企画した。</p>	<p>重度化や終末期への対応は、医師・看護師との連携・協力を得られる体制になっており、ご家族等の意向に沿って支援するよう取り組んでいる。精神科医よりターミナル対応の心構えを聞く研修会を企画し、職員の意識の共有化を図っている。</p>	<p>重度化や終末期対応の文書化された指針を鋭意検討中であるので、事業所で出来ること、出来ないことを精査して、早期に指針を作成し、ご家族等に事業所の基本姿勢を説明して同意を得ることを期待したい。時の経過の中で思いが揺れることもあるので都度話し合いを重ねることを望みます。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救急法の勉強会への参加や職員間での学習会の開催を実施し全ての職員が向上できるよう努めている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練計画に基づき災害対策を行っている。災害時には地域との協力体制がとれるように協力者を依頼してあり、夜間を想定した避難訓練も行い通報装置を設置した。</p>	<p>隣接する事業所と合同で行う通報・避難・消火訓練を地区協力員の参加を得て年3回行い、さらに、グループホーム単独で避難訓練などの部分訓練を年4回行っている。自動通報装置・スプリンクラーの設置、避難経路図の掲示など災害への備えは出来ている。町役場や病院等、事業所周辺に公的機関もあり災害への協力体制も整っている。</p>	

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人内研修の参加やミーティングでのケースを通しての話し合いをし利用者の理解を深めた対応をしている。	プライバシーや個人情報の保護、人権の尊重などは内部研修などを通じて職員の共有認識となっており、日頃の言動は職員同士で注意し合うよう取り組んでいる。入浴・排泄等の介護現場では、さりげない言葉掛けを心掛けて尊厳の保持に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り寄り添う事で意思表示しやすい声掛け、又表情や全身での反応を観察するよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に定めず、その日の各自の健康状態や気分、ペースに合わせ無理のない支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向を第一に考えているが、外出時には身だしなみの御膳だてをしたり、不十分な所はさりげなく支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告等を一緒に見ながら、今何を食べていいのか何が好きで嫌いな物は何かを聞き出しながら買い物と一緒に出かけたり食材を下ごしらえしたり台ふきをしたり、個々に合った事を行っている。	台所が共用空間より少し離れた別の部屋であるので利用者は出来る範囲で調理の下準備やテーブル拭き、お茶入れなどを職員と一緒にやっている。職員が、利用者の希望を取り入れながら献立を作成し、ハウスの畑で栽培した物やお裾分けで頂いた野菜等を活用している。レコードやCDでBGMを流し、ゆったりした食事時間となるよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量・食事を記録し、本人の体調や変化に応じメニューの変化や好物等の工夫をしている。		

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分でできる方は声掛けをし、見守りながら不十分な所はさりげなく支援している。食後は必ず口腔ケアの定着が出来ている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを職員全員が把握し自立に向けた排泄が出来るよう支援をしている。トイレでの排泄が困難になってきた場合二人対応での支援をしている。	全員がりハビリパンツと尿取りパットを使っているが、排泄パターンに沿ったトイレ誘導や声掛けをして、トイレを利用しての排泄を介護の基本としている。自立に向けての支援をしているが、布パンツに切り替わった方は現在のところ居ないことを伺った。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェックは元より、本人の顔つき、表情に留意し食物繊維や乳製品の摂取などに加え適度な運動を行って便秘改善や予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望により入浴をして頂いている。嫌がる方には声掛けの工夫をし、入浴して頂いている。重度化し一般浴に入れなくなった場合、隣接している小規模の機械浴を使用出来る事となっている。	入浴は利用者の希望に沿って行い、現在、1人週2～3回、1日3人、午後入浴している。入浴日の間隔が3日以上にならないよう取り組んでいる。入浴拒否者も居て苦慮することもあるが、声掛け等の工夫で対応している。重度者は隣接する事業所の機械浴を利用できる。浴室はゆったりと時間を掛けて楽しむには若干狭く、脱衣所も通路をカーテンで仕切って一時使用するようになっているが、職員と利用者で作る温かみや暮らしの匂いのする入浴となっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕方を穏やかに過ごしたり、日中の活動性を高めるなど安眠につながる工夫をしている。眠れない時はゆっくり話を聞くよう心掛けている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や効能を確認している。処方の変更があった際には特に状態観察に努めている。薬の管理は職員がし、服薬時には二人の職員で確認し本人に渡し、服薬した所まで確認している。		

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の力を発揮できるよう色々な事に挑戦していただき、出来ない部分は職員が支援しながら行っている。又おやつは手作りで召し上がっていただくよう工夫をしている。	
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い出しと一緒に出かけたり季節に合わせた屋外活動も行っている。その際家族へお知らせし一緒に参加していただいている。	事業所周辺の散策、桜や藤の花見、雛人形展、紅葉狩り、文化展の見学、ふれあい祭りの参加など、戸外に出て五感の刺激を得る機会を多くするよう努めている。テラスで行うバーベキュー大会、焼き芋大会、漬物作り、どんど焼きなど季節の移り変わりに応じた、戸外で楽しむ行事も企画している。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	生活の視点を大切にし、買い物等お財布に触れる機会を設けている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりが作った絵手紙や暑中見舞い・年賀状を、家族へ出したり返信があったりする。家族からの電話が来た時には、子機を本人に手渡し話していただいている。	
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースに行事の写真・作品を展示し来所された方々にも見ていただいている。季節に応じた花等も散歩に出かけた時に摘んで来ては飾っている。	食堂や廊下には四季の貼り絵や手作りカレンダー、行事等の写真、散歩途中で採った花などが飾られ、利用者や面会者に話題を提供している。廊下にソファや椅子を置き、寛ぎの空間を作り、職員との心地よいコミュニケーションの場となっている。廊下は床暖房で快適空間となり、事務室からは全居室が一望でき、安心への配慮が出来ている。天井は高く冬期の暖房等が気になるが、広がりや解放感があり、居室等で窓のスペースが取れなく狭さを感じてしまう分を補っている。食堂のテーブルは冬期はコタツ風に活用し、車椅子でも入れるようになっている。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	長椅子や1人がけ椅子を置き一人で寛ぐ空間の工夫をしている。テラスにも椅子を置き複数の方での寛ぎの空間がある。	

外部評価結果(くにちゃん家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や日用品を自宅より持参していただき居心地の良さに配慮している。	事業所で準備した物はベッド・物入れ棚・枕元灯であり、それ以外は利用者の馴染みの物を自由に配置している。家具・仏壇・位牌・机・椅子・写真等それぞれの部屋が、その人好みで作られ、一人ひとりの利用者が居心地よく過ごせるようになっている。ショートステイ事業を行っていた時の部屋を活用しているため、2部屋を1部屋に改修している部屋もあり、広々と、ゆったり過ごせる空間となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせたケアに向け一人ひとりの力を職員が把握し本人の出来る限りの力を最大限に活用できるような支援のあり方に留意している。		